

## 令和7年8月利府町教育委員会定例会会議録

- 1 開催日時 令和7年8月29日（金）  
午後1時00分から午後2時10分まで
- 2 開催場所 利府町役場 議会棟 第1・2委員会室
- 3 出席委員 村松淳司 委員（教育長職務代行委員）  
高田 修 委員  
坂下 咲希恵 委員  
小島 優子 委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明のため出席した者 教育部長 阿部 昭博  
生涯学習課長 古澤 晃一  
総務学事係長 太田 洋美  
総務学事係主査 安住 真紀子
- 6 傍聴者 なし
- 7 令和7年7月定例会会議録の承認  
原案のとおり承認。
- 8 本定例会会議録署名委員の指名  
高田委員と坂下委員を指名。
- 9 一般事務事業報告及び事業計画  
（説明者：教育部長）  
原案のとおり承認。
- 10 議案  
議案第15号 令和7年度教育要覧「利府町の教育」について  
（説明者：教育部長）  
別冊の資料により説明。表紙の写真は、リフノスに新しく設置された  
荒川静香さんのモニュメントとシンボルツリーの写真である。  
（審議）

高田委員 要覧の配布先はどこか。  
教育部長 学校や議会、近隣の市町村等です。  
ホームページにも掲載予定である。  
高田委員 立派な要覧であるので配布先を検討してみてもは。  
原案のとおり承認。

### 議案第16号 利府町教育委員会に属する県費負担教職員の部分休業に関する規則の一部を改正する規則について

(説明者：総務学事係長)

別紙資料により説明。

(審議)

高田委員 子育てをしながら働きなさいという環境もわかった。妊娠出産で子育てをしながら働かれる先生は休暇を何ヶ月ぐらい取得するのか。  
教育部長 人によりけりだが、産休育休合わせて1年間ぐらい休んで復帰するようなパターンが多い感覚であるが、ケースバイケースである。  
高田委員 1年して復帰した後にこの制度を使って、送り迎えしながら、業務されるということか。例えば1時間遅く来て、1時間早く帰るとかというパターンなどが考えられるのか。  
教育部長 そのとおりである。  
坂下委員 男性育休取得率は結構上がってきているのか。  
教育部長 はい。数値的なものは言うことができないが、意識は高くなってきている。  
原案のとおり承認。

### 議案第17号 学校教育法施行細則の一部を改正する規則について

(説明者：総務学事係長)

別紙資料により説明。

原案のとおり承認。

## 1.1 報告事項

### (1) 令和7年度利府町立小中学校 全国学力調査結果について

(説明者：教育部長)

別紙資料により説明。

(質疑)

坂下委員

やはり算数で点数が低いと数学も点数が低い。

#### 教育部長

去年よりは改善した。例えば、中学校の去年はマイナス4だったのがマイナス1なので3ポイントプラスになっている。小学校は落ちてしまったが、これも比較すると6年生と中学校3年生で実施するので、当然毎年メンバーは変わるが、例えば、63ページ、今年の中学校の成績は、今の中3の成績である。そうすると、3年前は令和4年度の6年生であり、令和4年度の小学校と今年令和7年度の中学校は同じメンバー、多少の転校等で入れ替えはあるが。令和4年度小学生時は算数も国語もよかったが、中学校3年生になって、ちょっと下降線ということになる。

#### 高田委員

何年ごとに実施か。

#### 教育部長

毎年だが、対象は小学6年生と中学3年生である。来年は令和5年度に小学生だった子が中学3年生となり、対象となる。

#### 村松委員

算数、数学のポイントが低い理由についての県の見解は。

#### 教育部長

子供たちは入れ替わるが、やはり授業が大事になっているので、例えば県の方では、今年度出向しているかどうかわからないが、指導主事が現場に出向いて、こういう授業を推奨すると指導主事自らその授業の実践を試みたりしている。

#### 村松委員

指導方法の改善について、中学校は改善している気がする。小学校は改善した感じがしない。

#### 高田委員

素人の考えだが、生活で数に触れる機会が本当に少なくなった。2とか3とか数字を見ることがあっても2個のものとか、3個のものとかで2個と3個足すと5になるとか、数を数え、アナログに触れる機会がない。数に触れる機会がないのと、割合はアナログで考えると思うので、それをデジタルの数字だけで感覚をとらえるもの難しいと感じるが。その辺は教育の専門家として、どのように考えているか。

#### 教育部長

確かにアナログで触れるという機会は間違いなく減っているのかなと思う。算数の授業に関しては、青山小学校が他の学校とは違う、いわゆる先進的な文科省が推奨するような授業を試みている。

**村松代行**

標準偏差は出ないのか。

**教育部長**

はい。

**村松委員**

どのぐらい広がりがあるのか。標準偏差的に言うと、実は下がってなくて、逆に去年の10点よりも今年の方が実はよかったりするかもしれない。点数で評価はできないかなと思うが、青山方式がいいのは間違いない気がする。

**教育部長**

他の学校でも実施をといるところだが、今必死になって広めている。青山小学校の実践例を見学にという話は、校長先生、教頭先生方には折に触れてアナウンスをして広めていくようにと伝えている。

**村松委員**

青山方式を他の学校でやるとなると結構大変ではないか。

**教育部長**

子どもたちの実態もあるが、すぐ取り入れられるかというのはわからない。だが、方向性としてはやっぱり良いと思う。今までの一律の授業だと、極端な言い方をすれば、できる子はすぐに終わってしまって空白の時間ができる。苦手な子についてはいくのに苦労する。結局、中間レベルに合わせる授業になってしまう。青山小学校が実践しているのは、できる子はどんどん別のものを取り組んでいきましょう。苦手な子は例えば、できる子が教えたり、先生がついたり、支援の人がついたりとか、できないことをできるように、子供たちに応じたやり方なので、このような成果があらわれている。

**高田委員**

先生の数も含めて。大変だと思うので、やる方向であれば、その辺も含めて、教育委員会である程度の相談に乗ることも視野に入れた方がいいと思う。

**村松委員**

青山方式は先生の数ではなく、グループ学習で、子供がわかっているかどうかで自分でわかるというのが1ついいと思う。わかる子供が、自分がわかるということを意識してやるというのがやっぱり一番いいかなと思って見ている、もしかしたら間違えているかなというのを自信を持つことによって、本人ももっと伸びるだろうし、わからない子供も一緒にやることでわかるようになるので、共存状態にある。新指導要領は割とグループ学習が主導されている。

## 教育部長

「個別最適な授業」と「協働的な授業」の2つがよく使われている。それを文科省でもどんどん進めていきましょうと。県でももちろん、できるだけ他の小学校もやってもらいたいのは確かである。こういう場でこういうふうにと見ることからスタートだと。小学校の方は中学校よりは取り組んでいる。

## 高田委員

なおのこと、柱として、小学校で青山方式を取り入れていただきたい。

## 坂下委員

他の学校の教員が青山小学校の授業見学に行くことはもちろんだと思うが、青山小学校の先生が他の学校に行って、質問に答えるとか相談することは時間的に難しいものか。

## 教育部長

スクールシップの中学校区毎に、勉強会を夏休みに実施し、情報交換している。ただ、先生たちの負担というのもあって、1歩踏み出せない先生もいらっしゃると思う。例えば中学校、今まで長い経験を積み積むほど、一斉指導的にきちんと話聞いて黙って話聞いてというスタイルだと思うので、それを崩すのに、勇気がいる。怖いというか、こんなことやっていいのかなと心のどこかにあると思う。

## 高田委員

そうすると研修会なり、グループワークなりをしてあげないと、なかなか1人で考えて、組み立ては難しいと思う。

## 高田委員

エビデンスも出ているけど、体験学習的なことをしておかないと難しいのでは。ぜひ進めてください。

## 教育部長

学力を上げるためには、授業はもちろん大事ですが、家庭の力も、特に小学校の低学年になればなるほど大事かなというふうに思う。家庭学習で学力を定着させる、基礎基本を定着させる。家庭の力にお願いするというのは絶対に必要で、毎年学力調査が高い秋田は、家庭学習の時間が多い。

## 高田委員

今、共働きが推奨されて、おじいちゃんおばあちゃんがやるしかないという、これもまたちょっと問題である。学童保育で指導する方がいらっしゃるとか、放課後の家庭学習的な場所も設置することも考えたほうがいいのではないか。

## 教育部長

私も学童については、把握はできてない。担当が違うので、学童の運営までは意見できない。

#### 村松委員

秋田は割と口挟んでいるようだ。要望書出すなり、話し合いの場を作るなり。でも、菅谷台（の放課後児童クラブ）も基本が遊びである。学習している雰囲気はゼロ。また、サイエンスデイの話は、まだ結論がついてない。ただ理科の結果がよかった。

## （２） 利府町小中学校教育講演会について

（説明者：教育部長）

町内小中学校の先生方が全員集まって、年に1回教育講演会を実施している。今年度は、8月22日に東北大学の榊先生を講師として開催した。榊先生は、脳科学で有名な川島隆太先生の研究室に所属していた方で、スマホの悪影響などを中心にお話をしていただいた。脳科学的に、前頭前野が一番活性化するのが計算しているとき、それも単純な計算、それ以上に活性化するのは音読。実は、昔からの日本の教育、つまり宿題でやっているような計算ドリルとか、音読は実はすごく理に適うこととのことだった。

#### 高田委員

鳥取大学の大学生に、メディア（iPad）を使って勉強するのと、紙を使って勉強するのと、どれが使いやすいですかと調査をした時に、「紙」が3分の1で、「メディア」は3分の1で、「両方どっちでも」が3分の1で分かれたが、どれが記憶に残りますかというときに80%が「紙」。小さいうちから使い慣れれば慣れるという考え方もないわけではないが、アナログできている人間にとって、デジタルの世界というのは、まずアナログの世界が広がっているからデジタルの世界が理解できるというふうに考えないと。メディアを、スマホ時間を大人も2時間以内だと報道になっているが、そういう動きがだんだん活発になって、全国に先駆けて利府町でというのをやっていただければなど。

#### 坂下委員

これは親に聞いていただくのと、子供にも聞いていただくことの両方が大事である。子供もそういう専門家から言われると響く。

## （３） 教職員の事故について

教育長職務代行委員

（４）各小中学校の状況については、個人情報が含まれるので秘密会とする。

#### **(4) 各小・中学校の状況について**

教育長職務代行委員

(4) 各小中学校の状況については、個人情報が含まれるので秘密会とする。

### **7 事務局からの連絡事項**

#### **(1) 令和7年9定例会の開催について**

次回開催予定日は、令和7年9月24日水曜日、午後2時からである。

### **8 閉会**